



京都市立蜂ヶ岡中学校 グランドデザイン

【学校教育目標】

人とのつながりを大切にし、たくましく生き抜く生徒の育成

【2026年度重点目標】

共創・挑戦・節度

<めざす生徒像>

- 考えが表現でき、課題解決に向かう生徒（学び）
- 相手の立場に気づき、よりよい人間関係を築く生徒（仲間づくり）
- 時と場に応じた正しい判断と行動ができる生徒（社会の規範）
- なりたい自分に向かって挑戦しつづける生徒（挑戦・あきらめない心）

<めざす教職員像>

- 授業改善に取り組む探究者
- 愛情豊かな心の通った関係性を築く教職員
- 生徒の可能性を最大限に引き出し育てることを目指す教職員

<めざす学校像>

- 誰もが安心・安全で納得して過ごせる学校
- 共通理解のもと、協働する教職員集団
- 地域住民から信頼される学校

生徒指導部の目標

心豊かな生徒の育成

- ・自分を大切にできる。
- ・他者を受け入れられる。
- ・感動を共有できる。
- ・学校生活を楽しめる。

研究部の目標

魅力ある授業と確かな学力の育成
「共創・挑戦」による学び手の育成

- ・対話と教材研究による「質の高い学び」の追求
- ・知識・技能の定着と「自立した学習者」の育成
- ・課題解決と自己表現の強化

令和8年度 重点目標

【共創】 生徒とともに、よりよい学校文化を創りあげる。

(1) 生徒と協働し、学校生活を築く

生徒を学校づくりの主体として位置づけ、日々の学校生活を「ともにつくる」姿勢を根幹とする。

(2) 生徒会と連携した校則の見直し

本年度は、生徒会本部からの申送り事項である「校則の見直し」に積極的に取り組む。

「誰もが安心・安全で納得できる校則」をめざし、生徒の声を取り入れる。

社会の常識に照らし、地域・学校の実態に即したルールを構築する。

(3) 学校行事・授業における生徒主体の創造

教師主導に偏らず、生徒が企画・運営・発信を担う機会を拡大する。

生徒の意思とアイデアを尊重し、共につくる教育活動を推進する。

生徒が「自分たちの学校をつくる」実感をもてる環境を整える。

【挑戦】 変化の大きい社会の中でも、自分で考え、判断し、行動できる力を育てる。

(1) 学校行事・部活動での挑戦機会の充実

生徒が自ら企画し、創意を生かせる活動を広げる。

新しい試みに取り組める環境を整え、成功体験を積ませる。

仲間とともに協力し、やり抜く経験を重視する。失敗は次への一歩として捉える。

(2) 日々の授業・学級活動が、生徒にとって最も多く挑戦できる場であること。

(3) 学活などで生徒の挑戦の姿を可視化し、日常の中で共有できる仕組みを整える。

目標や自己紹介には「挑戦の要素」を必ず含め、生徒自身が挑戦を意識できるようにする。

【節度】 TPO(時、場所、場合)を踏まえて、敬語・態度・振る舞いを使い分けられるようになる。

(1) 職員室や授業など「公式の場」で、相手への敬意を表す言葉遣いや態度を選べるようにする。

(2) SNSの使い方は自由に使えるからこそ、責任が伴うことを理解する。

1. 基本方針

学校教育目標「人とのつながりを大切に、たくましく生き抜く生徒の育成」は、蜂ヶ岡中学校区の生徒・保護者・地域の実態から数年来、引き継がれている。

この学校教育目標を達成するために、生徒のことを最優先に、現場主義の徹底をはかることでお互いの人間性を理解し、信頼関係を築くことを前提とする。そして日常生活のあらゆる場面で生徒に寄り添いながら時間と場所を共有することで、生徒を見守り、その可能性を最大限に引き出し育てることを基本に教育活動を行う。

学習指導要領が示すカリキュラム・マネジメントの視点をもって社会に開かれた教育課程を実現するために、小中一貫の9年間で意識しながら、中学校3年間で生徒の実態や課題、保護者や地域の願い等に応じて、生徒が身につけるべき資質・能力や学ぶべき内容などをわかりやすく示していく。

教職員においては、経験年数に関わらず中核的な役割を担い、各自の得意やそれぞれの立場で、主体的に課題解決に向けて挑戦することを期待する。

学校の取組が、保護者・地域の方にも十分理解していただけるよう情報発信を行い、信頼される学校づくりに努める。

2. 育成を目指す資質・能力 ～総合的な学習の時間を主軸として捉える～

- ① 自ら課題や疑問点を設定し、調べ解決しようとする道筋を大切にして、学習に向かおうとする力（課題発見・課題解決、自己調整力）
- ② 他者との関わりの中で多様性を認め、それぞれの立場を理解し、社会貢献する力（コミュニケーション能力、協働する力）
- ③ 調和のとれた生活習慣を身につけ、自らの生活や人生等を良くするために、時と場に応じた正しい判断と行動ができる。（判断力、適応力）
- ④ 進路や将来の生き方を見据え、目標実現に向けて見通しをもって粘り強く取り組むことができる。（情報選択能力、粘り強く取り組む力、挑戦する力）

3. 重点項目（目標達成のために徹底する取組）

- ① 「めざす生徒像」「めざす教師像」「めざす学校像」を達成するために、各係・委員会・分掌で内容を熟慮、精査し、報告・連絡・相談等の連携を通じて、創造的、組織的な学校運営を推進する。

- ② 各種調査や学校評価アンケート等の分析を行うことで、教育内容の質の向上に向けて、教育課程を編成、実施、評価し改善を図る一連のPDCAサイクルを確立するために、研究部を中心に組織的に取り組む。また、生徒の実態に応じた家庭学習についても模索する。
- ③ 生徒の自治能力を高めるため、主体的かつ協働的な活動を行い、達成感や成就感を味わえるような生徒会委員会活動の活性化を図る。
- ④ 生徒の主体性を引き出しながら、深い学びの実現を目指して、知能や技能にとどまらず、思考力や判断力、表現力の育成を図る。
- ⑤ 学びや活動の中に「見通し」「行動」「振り返り」を意識し、自分事として捉え課題発見・解決につながるような探究活動を行う。
- ⑥ あらゆる機会を活かして人権教育や道徳教育と連携し、多様性を認め心身共に健康で生命を大切にす教育を進める。
- ⑦ 学びの質のさらなる向上を目指して、これまでの教育実践とICTを適切に組合せ、GIGA端末を効果的に活用し、個別最適な学びや協働的な学びを実現するために授業改革を目指す。
- ⑧ 教職員一人一人が自らの働き方や資質・指導力向上に向けた意識改革を行う。
- ⑨ 教職員は計画的な研修に努めるとともに、学校内外の様々な経験を通じた自己研鑽を進めるなど、自らの資質・指導力の向上を図る。
- ⑩ 小中一貫教育の推進に向けて、義務教育9年間を見通した共通の目標を設定し系統立てた取組を行う。
- ⑪ 学校評価等から保護者・地域等の指標を活用し、取組の進捗度・達成度を振り返ることで学校運営に生かす。